

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 総田はるみ

作成日 2020年3月16日

【責任】

観光マネジメント学科に所属し、専門科目であるホスピタリティ教育研究、異文化コミュニケーション、応用言語学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、専門科目関連科目（ホスピタリティ論、観光事業と国際協働、専門ゼミナール（2年生～4年生）、学部共通科目（留学生対象の日本語、文学）の担当、学生の学生生活・キャリア支援、国際交流サークルMAPの顧問である。

【理念】

学生には、多様な価値観を理解し協働ができる人財になっていただきたい。グローバルな経済社会においては、異文化理解・多文化共生の視点を持ったうえでのコミュニケーション力とコラボレーション力が必要である。協働活動を行うには、言語・非言語コミュニケーションにより、他者・他の視座を認め理解し相互に学びあうことが、またその姿勢が、新しい社会の原動力・イノベーションの源となる。このように考え、ホスピタリティとコミュニケーションに関する知識・思考は、観光学だけではなく商学を学ぶ学生が『安んじて事を託さるる人』となるためには不可欠なものと考える。

双方向型の授業を行い、「自己の力で社会を見つめ疑問を持ち、探究、思考、表現できる」学生を育てることを目指すとともに、学内外の教育・研究者と積極的に情報交換を行い教授法の改善にも努めたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために所属校では、「コミュニケーション力、コラボレーション力の育成」、「幅広い教養とモラルの修得」、「ビジネスとマネジメントに関する基礎知識の修得」、「主体的な学びを促す」という方針で教育を行っている。また、教授法の改善を目的とし「教育者は学び続ける」という方針で活動している。

●「コミュニケーション力、コラボレーション力の育成」

・授業では、学生間で話し合う課題を提示し、教室内の巡回により円滑なコミュニケーションを指導している。また、ジグソーリーディング、ロールプレイ、タスクワークなどを取り入れ、お互いの長所を理解し短所を補い合う活動を実施している。

・ゼミ活動においては、グループでのフィールドワークを取り入れ、グループ内言動、グループ間言動、学外協力者に対する言動を意識し、待遇表現を内省することを促している。

●「幅広い教養とモラルの修得」

・学生が教員以外の社会人、先達者から学ぶ機会を設けている。

●「ビジネスとマネジメントに関する基礎知識の修得」

・「ホスピタリティ論」「観光事業と国際協働」の授業において、グローバル社会における協働の理念とあり方、ホスピタリティに関する知識を提供するとともに、学生が自ら考えるよう問いかけをランダムに発している。

●「主体的な学びを促す」

・授業では、まず学生の既有知識を収集し、授業到達目標の意義・プロセスを明確にし、学生の能動的な学習を支援するとともにインセンティブを与えている。

・授業では、学生の発言を板書し、文字化することによって知識・疑問の共有化をはかり、受講生全員が課題発見・解決に取り組むことを促している。

・ゼミ生の研究支援では、研究テーマを指定せず、卒業研究テーマを決めるまでに異なるテーマでの数回の発表を行ってもらい、学生個々の特性を活かしたテーマを自ら探すことを課している。研究活動においては、学生の試行錯誤を見守り励まし、答えの提示ではなくきっかけを与えるように心がけている。

・部活動では、所属学生が自ら考え、行動として実践する力を身に着けるよう、上級生をメンターとして育成し、後輩に対する指導、協働の実践の場としている。

●「教育者は学び続ける」

・「かながわ観光大学推進協議会」に所属し、観光に関する教育現場の情報・意見交換を積極的に行うとともに、観光学が社会に及ぼす影響、次世代の観光を担う人財の育成等について活動を行っている。

・「観光、コミュニケーション」をキーワードとし教育・研究に従事している大学教員の勉強会を運営し、学び場作りを行っている。

【評価・成果】160～280

- ・真鶴町より教育研究助成金をいただき、ゼミ生の研究活動報告を真鶴町にて開催した。
- ・学外講師（観光庁、ホテルホテル社長）を招聘した。
- ・交換留学生をゼミで受け入れ、日本語が堪能でない留学生（ドイツ人）が日本語で行われる講義に参加することができた。
- ・ゼミに2名の編入生を受け入れ、ピア・ラーニングを実践し、旧・新ゼミ生共に学習態度、内容に関する改善が見られた。
- ・推薦書を書いたゼミ生が学外の奨学金（ロータリー米山奨学金）を獲得した。

【目標】

- ・学生の発言を量・質ともに高める授業を企画・運営する。（2020年度）
- ・留学生対象の日本語講義では、2020年度入学生より選抜手法が変更したため、従来との相違点を抽出しより適切なルーブリックを作成する。（2020年度）
- ・ホスピタリティ人材育成のためのコミュニケーションに関する研究会を設立する。